

特集

東京大学の教育

～「大学教育の達成度調査」からみえてくるもの

大学総合教育研究センター

はじめに

大学総合教育研究センターでは、教育企画室の委託を受け、卒業生に対する大学教育の達成度に関する調査を実施している。今年度は第3回目にあたり、平成23年3月に平成22年度の卒業生3,101名を対象として実施し、1,936名から回答をいただき、回収率は約62%であった。特に今年度は東日本大震災の影響で、卒業式を縮小した中で、調査の実施には各学部にも多大な協力をいただいた。調査にご協力をいただいた各学部と学生みなさんに御礼を申し上げる。また、関係者の皆様にも御礼を申し上げたい。

この調査は、東京大学の教育・研究環境の向上を目的として、学生に、東京大学の学習環境、学習経験や大学生活についてたずねるものである。調査結果は、大学総合教育研究センターで分析し、その結果を東京大学の自己評価さらに教育研究の改善にさまざまな形で活用している。本報告書は、紙幅の関係で、今回とくに、新たに学生の留学経験や国際経験に関する質問を多く行ったので、その部分を中心に報告する。その他については、前2回と比較して、今後よりいっそうの分析を続け報告していく予定である。

今回は3回目の試みであり、回収率は上昇しているものの、依然として学部によってかなりのばらつきがあり、全体の傾向としてみるためには留意が必要である。今後も、調査を改善し、来年度以降も実施していくことになっている。本報告書に関しても、忌憚のないご意見をいただければ幸いである。また、引き続き各学部と今年度卒業される学生諸氏の調査へのご協力をお願いしたい。

平成24年1月
大学総合教育研究センター長
吉見俊哉

調査実施方法

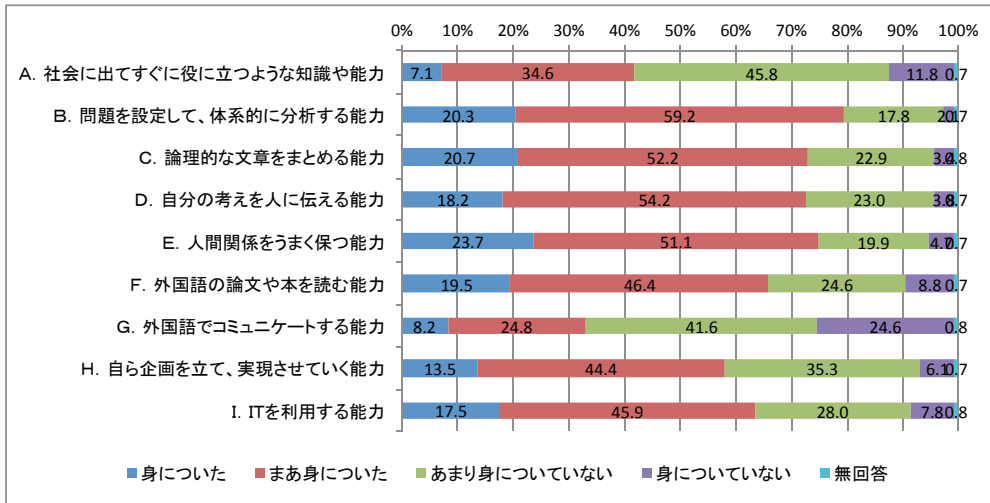
- アンケート送付日 : 平成23年3月25日(卒業式)
- 送付数 : 3,101票(卒業生数)
- 有効回答数 : 1,936票
- 回収率 : 62.4%(回収率は、有効回答数/卒業生数で計算した)

※学部(各学科)が、卒業式後の書類配布時に調査票を配布し、以下のAおよびBの方法で回答・回収した。A、Bともに記載のある学部は両者の併用。

- A. 自記による回答後、各学部が回収(法、工、文、理、農、経済、教育、薬)
- B. 自記による回答後、大学総合教育研究センターに郵送(法、医、文、教養、教育)

外国語の論文や本を読む能力は6割以上の学生が身についたとしている しかし、外国語でコミュニケーションする能力が身についた学生は約3分の1

Q. あなたは、大学時代をつうじて、以下のような点を身につけたと思いますか。

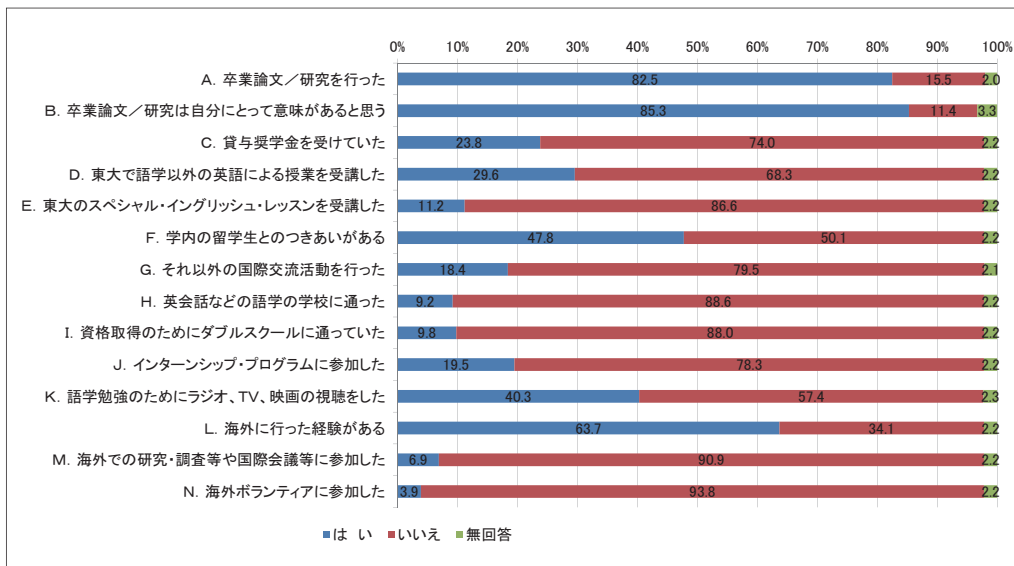


大学時代をつうじて、身につけた能力としてあげられているのは、「B. 問題を設定して、体系的に分析する能力」「C. 論理的な文章をまとめる能力」「D. 自分の考えを人に伝える能力」「E. 人間関係をうまく保つ能力」といった汎用性の高い能力で、いずれも「身についた」と「まあ身についた」を合わせて7割以上の学生が身につけたとしている。これに対して、あまり身についたと評価していないのは、「G. 外国語でコミュニケーションする能力」で、身についたとする学生は33.0%で3分の1に満たない。ただし、「F. 外国語の論文や本を読む能力」については、65.9%と6割以上の学生が身についたとしている。

汎用性の高い能力で、いずれも「身についた」と「まあ身についた」を合わせて7割以上の学生が身につけたとしている。これに対して、あまり身についたと評価していないのは、「G. 外国語でコミュニケーションする能力」で、身についたとする学生は33.0%で3分の1に満たない。ただし、「F. 外国語の論文や本を読む能力」については、65.9%と6割以上の学生が身についたとしている。

汎用性の高い能力は4分の3の学生が身についたとしている 実用性の高い能力はあまり身につけていない

Q. 在学時の学習機会・経験についてお聞きします。



在学時の学習機会・経験として、最も高く評価されているのは「A. 卒業論文／研究を行った」(82.5%) 「B. 卒業論文／研究は自分にとって意味があると思う」(85.3%) で8割を超えている。

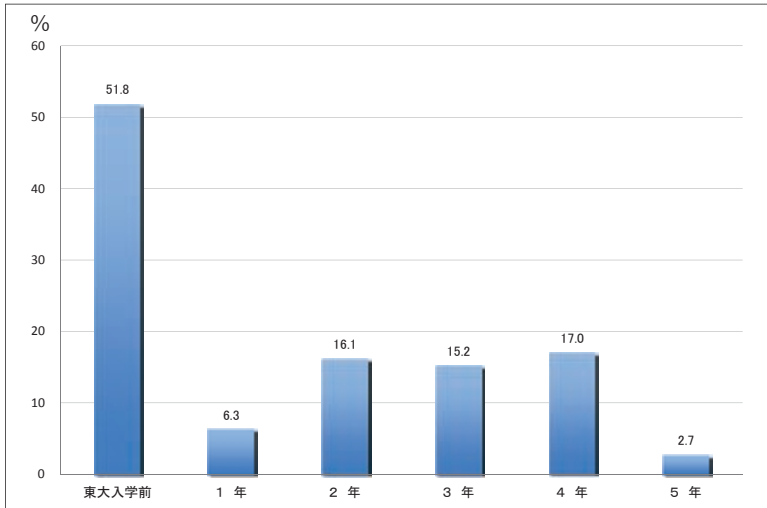
海外経験や語学学習などでは、「L. 海外に行った経験がある」は63.7%と6割を超えているが、「F. 学内の留学生とのつきあいがある」学生は47.8%と半数以下で、「D. 東大で語学以外の英語による授業を受講した」学生も29.6%にとどまっている。

短期留学（1年未満）経験者は約1割、ただし東大入学以前が半数

長期留学（1年以上）経験者は3.5%、ただし東大入学以前が6割以上

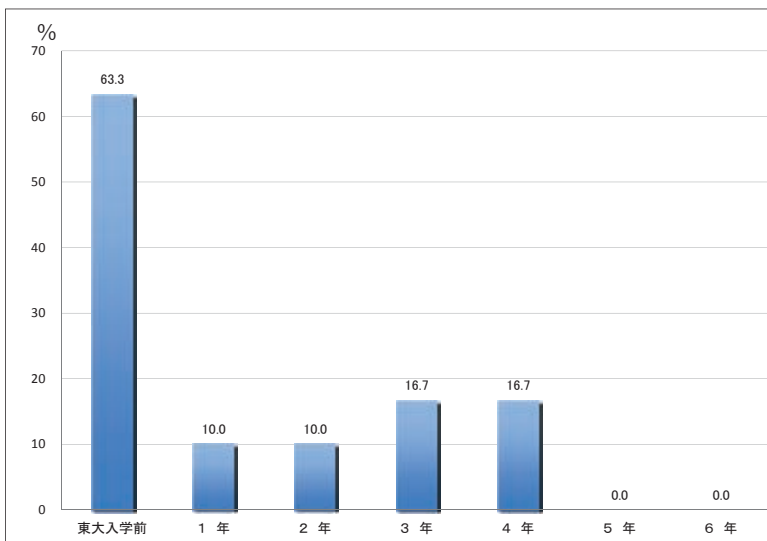
Q. あなたはこれまでに留学をしたことがありますか。それはいつですか。

短期留学（1年未満）をした時期



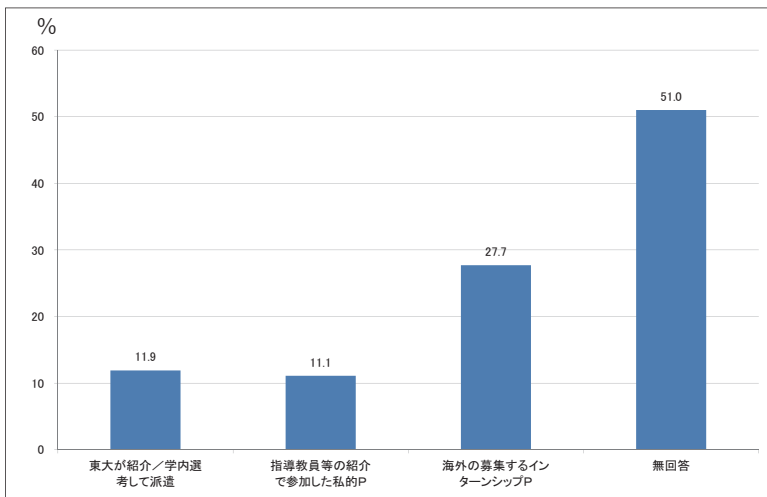
調査結果によると、短期留学（1年未満）経験者は、全体の12.2%と1割強にすぎない。左のグラフのように、そのうち51.8%と半数以上は、東大入学以前に経験している。学年別には1年次が6.3%、5年次が2.7%と少ないが、その他の学年では16%前後となっている。

長期留学（1年以上）をした時期



調査結果によると、長期留学（1年以上）経験者は、さらに少なく3.5%にとどまっている。左のグラフのように、そのうち東大入学以前に経験した者の割合が63.3%と6割を超えている。1、2年は10%、3、4年は16.7%となっている。5、6年生には長期留学経験者はみられない。

留学プログラムの種類（複数回答）

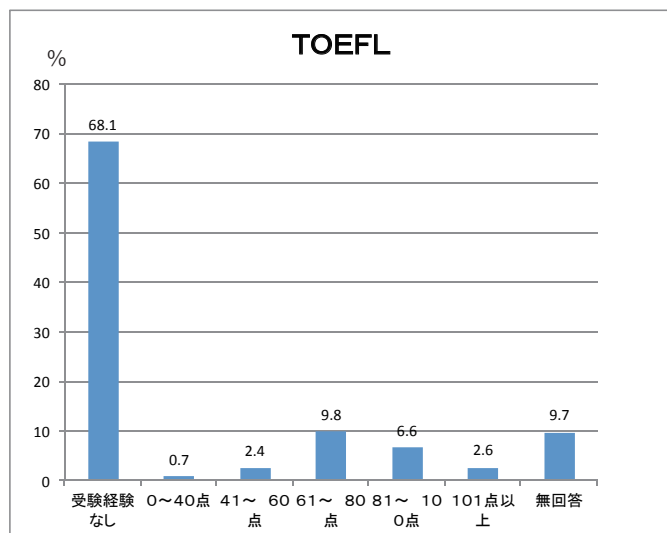


留学経験者の経験したプログラムは、「海外の大学や会社などが募集するインターンシップ・プログラム」が27.7%と最も多く、「東京大学が紹介/学内選考して派遣するプログラム」が11.9%、「指導教員等の紹介で参加した私的プログラム」が11.1%となっている。

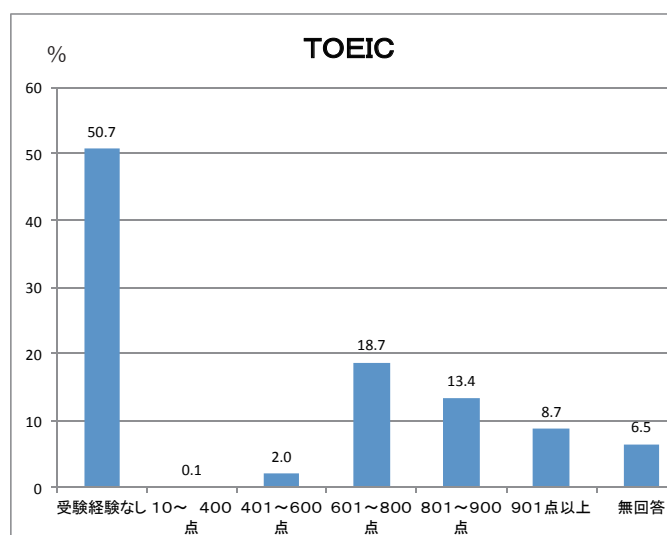
TOEFL 受験経験者は約 2 割

TOEIC 受験経験者は約 5 割

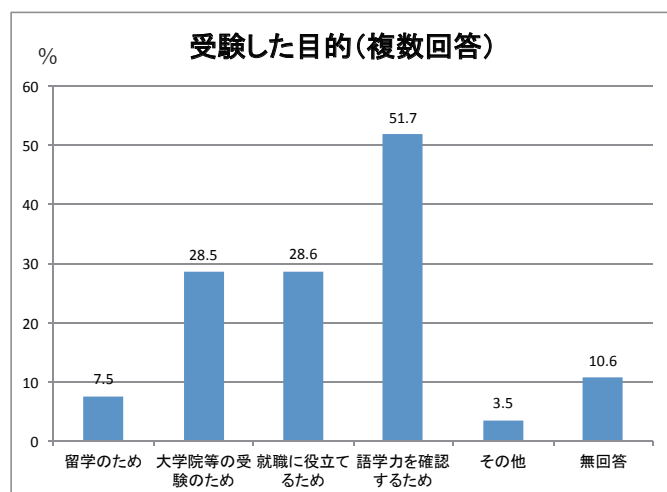
Q. あなたは、在学中に TOEFL や TOEIC 等のテストを受験したことがありますか。また、点数はどのくらいでしたか。



調査結果によると、TOEFL 受験経験者は全体の 22.1% となっている。左のグラフのように、得点は 61 ~ 80 点が 9.8% と最も高い割合になっている。
* TOEFL (BIT) は 120 点満点



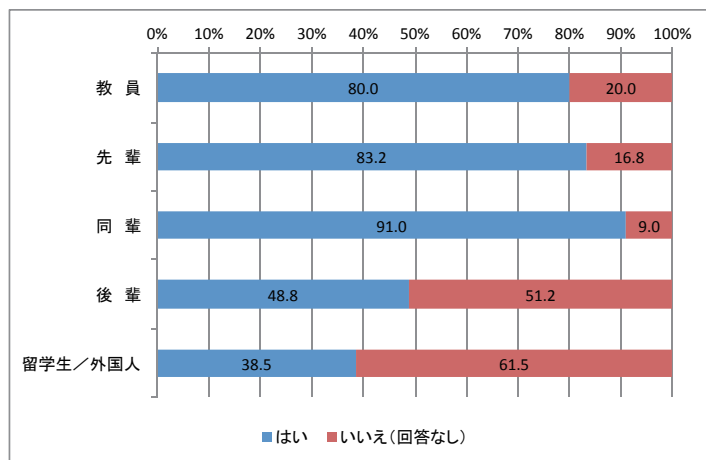
調査結果によると、TOEIC 受験経験者は 42.9% と TOEFL 受験者と比べると約 2 倍と高くなっている。左のグラフのように、得点は、601 ~ 800 点が 18.7% と最も高い割合を示している。
* TOEIC は 990 点満点



語学テストの受験目的は「語学力を確認するため」が 51.7% と最も多くなっている。次いで、「就職に役立てるため」28.6%、「大学院等の受験のため」28.5% で、「留学のため」は、7.5% と少ない。

学問的な交流をした相手は、同輩：約9割、教員・先輩：約8割、後輩：約5割、留学生・外国人：4割以下

Q. あなたは、次のような人と学問的な交流がありましたか。

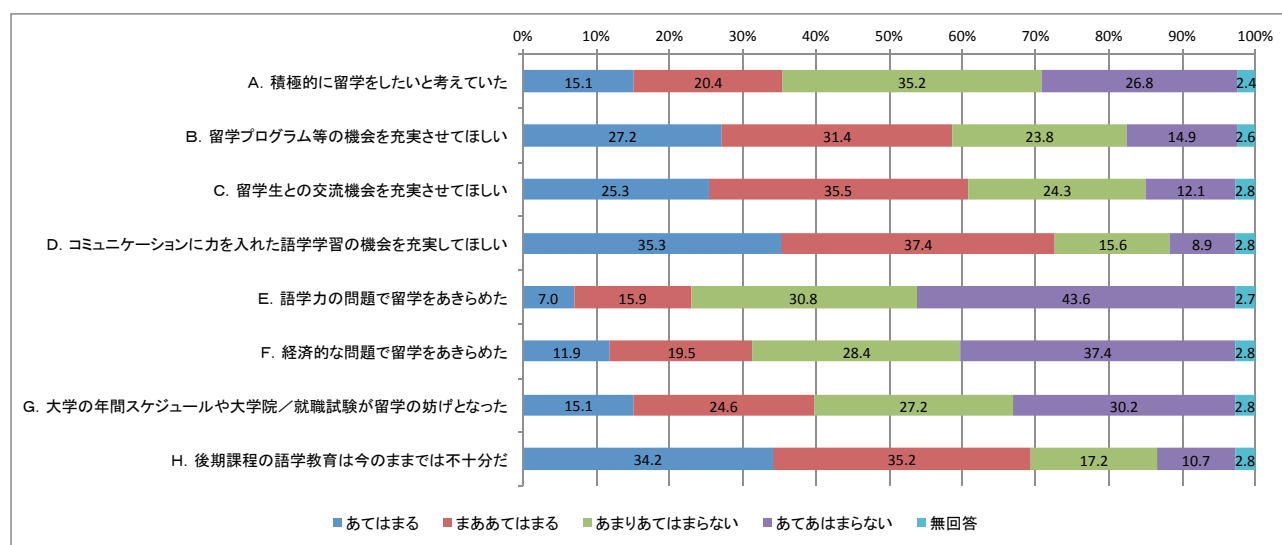


最も学問的な交流があった相手は、「同輩」が約9割（91.0%）、次いで「先輩」が8割強（83.2%）、「教員」が8割（80.0%）となっており、「後輩」は半数以下（48.8%）、「留学生・外国人」は4割以下（38.5%）にとどまっている。

積極的に留学したいと考えていた学生は約3分の1

大学の年間スケジュールや大学院・就職試験が留学の妨げ：約4割

Q. 留学や語学学習についてお聞きます。



「A. 積極的に留学をしたいと考えていた」学生は、約3分の1（35.5%）であるが、留学や語学学習に対する要望で最も多いのは、「D. コミュニケーションに力を入れた語学学習の機会を充実してほしい」で7割以上（72.7%）である。次いで、「C. 留学生との交流機会を充実させてほしい」（60.8%）や「B. 留学プログラム等の機会を充実させてほしい」（58.6%）が6割近くになっている。

また、「E. 語学力の問題で留学をあきらめた」学生は、約4分の1（22.9%）である。さらに、「F. 経済的な問題で留学をあきらめた」学生は、約3割（31.4%）、「G. 大学の年間スケジュールや大学院/就職試験が留学の妨げとなった」とする学生は、約4割（39.7%）となっている。また、「H. 後期課程の語学教育は今のままでは不十分だ」とする学生も7割近く（69.4%）にのぼっている。

大学総合教育研究センター ホームページ：<http://www.he.u-tokyo.ac.jp/>
 問い合わせ：大学改革基礎調査部門 担当：小林・劉（内線：22016）まで